

2020年、明けましておめでとうございます。

本年も「役立つISO審査」を登録組織の皆様にご提供する所存です。



左が副社長 Sari 中心が Audit Report 統括責任者 Sue DASジャパン萩原（英国本部にて）

●英国本部へ

昨年10月に1週間ほどDAS英国本部に出張してきました。主な目的は私自身の研修でしたが、英文のAudit Reportがいかに重要なのかを思い知らされたひとときでした。英国本部行きは、普段はほとんど観光はできないのですが、たまたま秋の大型台風で羽田空港が混乱し欠航になったおかげで、ロンドンを一日観光できました。

一電車内で

たまたま乗ったロンドンの地下鉄で見かけたのは、乗客が紳士だということです。日本のよう電車内でスマホをしている人をほとんど見かけません。また発車間際の駆け込み乗車もまずはなく、次の電車を静かに待つ人がほとんどです。また社内で大きな声で会話する人もおらず、小さな声で遠慮がちに話しているのが印象的でした。

一人助け

1週間もいるといろいろありました。ある日滞在ホテルの近くを散歩していて道に迷いました。カメラ片手にでかけ、スマホをホテルにおいたままでした。英国も秋は日暮れが早くあっというまに夕暮れになり焦りました。さあどうしようかと迷っていた時にたまたま小さな車の修理工場が目に入り、飛び込みました。若い彼からホテルに帰るのに1時間以上もかかるといわれ途方に暮れていたところ、なんと私を車でホテルまで連れ帰ってくれました。親切にされたお礼として降り際にお金を渡そうとしましたが、彼はいっさい受け取りません。あらためて英国人の人の良さを思い知らされました。

ーレストランで

ホテルのレストランで食事をとりましたが、日本で見かける 1人で数人の席を独占するようなことはありません。2人でも当たり前のように隣の席から座ります。またバイキング料理も我先にと急いだりしません。他人に迷惑をかける行動は小さいときからしつけられている証拠だと思われます。

ーEU離脱

最近世界中の話題になっているのが、英国のEU離脱問題です。これはかつて世界を制覇した大英帝国のプライドがあるかと思われます。つまりEUの経済体に頼らずに自国の経済は自身で賄い、独自の文化と経済を築きたい思いから来ているのではないのでしょうか。しかしあらゆる国々と交流が進む今日のグローバルの世界では、世界とうまくものごとを進める政治的な手腕が大きく問われることも事実だと思います。

DAS ジャパン から

ISO 専門誌「アイソス」2020年2月号に、代表の萩原が執筆！

昨年に引き続き、新年早々のアイソスの特集として、「新々間違いだらけのISO」が掲載されます。これで5年連続の執筆となります。今回も「ケーススタディ30例」に基づくさまざまな実例をもとに、どこが間違えているのか、またそれらをどのようにすれば自社に役立つのかを、代表の長いISO審査とコンサルの経験と実績からその解決策を提示しています。下記にタイトルの一部を紹介します。

1. 1年間の疑問事項
2. 4.1及び4.2項の導入背景
3. 設計・開発の考え方
4. 審査員のコミュニケーション力
5. 緊急時対応の考え方
6. 行政にISMS導入を
7. ISOの効果

(編集責任者 萩原由利)



英国系 ISO 認証機関 DAS ジャパン(株)
代表取締役 萩原陸幸
東京都豊島区東池袋 3-20-16-503
info@das-japan.jp
<http://www.das-japan.jp>